

人工林健全化に対する森づくり事例

事業名 環境貢献林整備事業

市町名 安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・安芸北森林組合から人工林健全化の補助申請が提出され採択を行い、市内9箇所を実施した。

今後の展開

・今後も施業意欲のある森林所有者からの要望を聞き取りつつ、同様の事業を展開する予定である。

取組の内容

- ・事業主体： 安芸高田市
- ・実施場所： 安芸高田市美土里町本郷
高宮町佐々部、船木
- ・業務委託先： 安芸北森林組合
- ・業務量： 8.02ha
- ・業務金額： 3,411,000円
- ・業務期間： 令和6年2月20日
～令和6年年3月31日

取組後の感想

【良かった点】

・人工林健全化事業を行い、昨年以上に健全化が図られた。

【今後の課題】

・一昨年の豪雪により、間伐の施業を行っていない人工林について倒木が多く、さらなる取組を進めていく必要がある。

【整備前】



【整備後】



小学校と連携した取組事例

事業名 森林・林業体験活動支援事業

市町名 安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・森の学校プロジェクトとして、安芸高田市の地域自然(緑地環境保全地域・生活環境保全林等)を教材に森林の役割等の学習・林業体験学習及び講演を小・中学校で行い、森林・林業に興味を持ってもらう。

今後の展開

・今回の活動は、森林に親しむために山へ入り低学年はクラフト材料を採取し「どんぐり駒、ツリース」を作り、高学年は椅子作りに取り組んだ。今後は、森林の役割や森林を守る取組にシフトしたい。

(除伐体験等)

・現在、市外の団体へ活動支援の運営を行っているが、人材育成も兼ねて、安芸高田市内に拠点を持つ団体に支援活動を依頼したいと考えている。

取組の内容

- ・事業主体: 安芸高田市
- ・実施場所: 安芸高田市内8小学校及び1中学校
- ・業務委託先: NPO法人ひろしま人と樹の会
- ・参加人数: 563人
- ・事業費: 1,000,000円
- ・実施期間: 令和5年年9月22日～12月8日



【活動の様子】

取組後の感想

【良かった点】

・新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げになったことにより、多くの子供たちに森林体験活動を行ってもらうことができた。

【悪かった点】

・活動の時間が90分間の制約した時間での取組であったため、十分な体験活動を行うことができなかった。

【活動の様子】



地域団体の森づくり活動を活性化させた事例

事業名 特認事業(森林・林業体験活動支援)

市町名 安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

- あきたかたの森構想プロジェクトは、森づくり活動をする地域団体が、自ら活動を活性化し、次世代へ繋いでいくため、森づくりの技術や知識を習得していく活動をバックアップサポートしている。
- とくに、企画運営をするスタッフの人材育成/発掘/交流、情報交換、安全に関わる講習会の開催、企画会場の整備を実施。

取組の内容

① 子どもの森ひろば

- 事業主体：子どもの森ひろば実行委員会
- 実施場所：吉田町池ノ内翠月園
- 業務量：307名参加
- 業務金額：743,000円
- 業務期間：令和5年10月21日、令和6年2月24日
- 内容：親子で里山の自然を体験。キノコ植菌、木工、森遊び、食事、絵本など。

② ツリークライミング体験

- 事業主体：フォレストラボ向原
- 実施場所：向原町戸島談笑亭
- 業務量：9名参加
- 業務金額：60,000円
- 業務期間：令和5年10月22日
- 内容：木に登り、森づくりの魅力を発信するための人材発掘。



③ 間伐材でワークショップ

- 事業主体：フォレストラボ向原
- 実施場所：いいオフィス向原(向原小裏山)
- 業務量：17名
- 業務金額：513,000円
- 業務期間：令和5年9月11日、令和6年3月9日
- 内容：間伐材での木工を安全に運営するためのスタッフ育成と情報交換。子ども向けの木工作業台の製作。

④ その他、交流会、体験林整備

- 内容：上記①、②、③の運営のために、地域団体間の情報交換や、各企画会場の森の整備を実施。
- 業務量：72名
- 業務金額：530,000円



今後の展開

各地域団体が、この取組内容を踏まえて、様々な企画を自ら実施、運営していくことを期待している。

① 子どもの森ひろば

予算調達から企画、運営まですべて自律できる段階に入った。



② ツリークライミング体験

今回は体験で、十分なスタッフ数の確保、スキルの習得のうえ、2年後に一般、子ども向けにも本格的にツリークライミング講習の開催見込み。

③ 間伐材でワークショップ

現在、簡易な製材手法や安全な木工手法について、スタッフで研究している段階で、必要な道具も整備中。次年度、運営方法を確立し、2年後に一般向け講習として運営の見込み。

取組後の感想

【課題】

① 子どもの森ひろば

募集期間の延長、駐車場係の誘導方法、危険箇所への警告方法、木工での電動道具の有無など。

② ツリークライミング体験

木登りの魅力は伝わったが、安全ノウハウを伝えられる人材育成にはまだ検討が必要。



③ 間伐材でワークショップ

簡易製材の基本は確立したので、実践に必要な細かいノウハウを集積して効率化必要。安全な木工作業の前に、目的意識の共有が重要。



地域住民等と連携した取組事例

事業名 特認事業(地域資源保全活用事業)

市町名 安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・八千代湖畔で、たくさんの観光客が訪れる中、史跡である「田屋城址」が荒れており、山へ入ることができなかった。

有志で「蘇らせる会」を結成して約1年、なんとか主郭まで安全に登れるようになったが、訪れた方がじっくりと腰を休める場として整備するために、「さとやま土師田屋城址を守る会」と名前を改め、ひろしまの森づくり事業を活用し広島工大の学生ボランティア達の支援を受け「花木に埋もれた自然の森」を目指して、田屋城址を整備している。

今後の展開

- ・田屋城址の登山道の整備、害獣対策はほぼ終わった。今後は、田屋城址から出て寺社跡や五輪塔群、古墳群を要する天の岩県営林の「史蹟探索と森林セラピー遊歩道」を整備していく予定である。
- ・田屋城址の東側の森に小鳥の巣箱を増設、西側の「かぶと虫の森」と併せて子供達の楽園を整備する予定である。
- ・年に一度は鶴学園八千代校舎において森にかかわるイベントを開催する予定である。

取組の内容

- ・事業主体: さとやま土師 田屋城址を守る会
- ・実施場所: 八千代町土師
- ・業務委託先: ひろしま人と樹の会ほか
- ・業務実施量: 0.5ha
- ・業務金額(事業費総額): 5,989,750円
- ・業務実施期間: 令和5年7月～令和6年3月
- ・登山道の整備、周辺にライラック等の植樹を行った。
- ・雑木の除間伐を行い山城の見える化を図り、登山道に沿って東側の森に「小鳥の国 やちよ」西側に「かぶと虫の森」を整備した。
- ・山城全体を害獣柵で防御、更に登山道の入口には「猪ふまず」や「しし防」を敷設した。
- ・令和3年の豪雨災害で崩落した田屋城址西側の護岸を修繕した。
- ・フォーラム: 鶴学園八千代校舎にて「史蹟探索と森林セラピー遊歩道」フォーラムを開催した。
- ・標識整備: 田屋城の史蹟探索、森林セラピー遊歩道に道標や歴史説明看板を設置した。

取組後の感想

【良かった点】

- ・「かぶと虫のドーム」だけでなく田屋城址の森のあちこちに「かぶと虫の屋」が完成し、5月には広島市内の子供会が第二回「かぶと虫の採取会」を開催する予定である。
- ・田屋城址の東側の森には「小鳥の国 やちよ」が完成し「ひろしま 人と樹の会」でしかできない大型の巣箱が天空にいくつも設置された。今後、仏法僧など大きな鳥の巣作りが期待されている。

【悪かった点】

- ・かぶと虫のドームに椎茸のほだ木を百本並べたが、日よけ、湿度、天地返し、しけ打ちやほだ叩きを知らず一年目を棒に振った。慌てて専門家の指導を受け、この秋には子供たちの歓声が森にこだまするよう豊作を願っている。



地域内住民と連携した取組事例

事業名 特認事業(地域資源保全活用事業)

市町名 安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・令和4年度に継続し令和5年度もひろしま森づくり事業で、鳥獣害対策の修理保全と、簡易休憩小屋建設に取組み、活動拠点を整備する。

今後の展開

・地区内の環境整備を継続して行き安心安全で住みやすい地域をめざす。
・丸太小屋を活動拠点とし、子供達や若者が集える集落とする。

取組の内容

- ・事業主体：法恩地里山を守る会
- ・実施場所：安芸高田市甲田町
下小原報恩地地区
- ・業務(実施)量：集落沿線鳥獣対策鹿囲い補修
- ・業務委託先：(有)新川工務店
簡易休憩小屋1基設置
- ・業務金額(事業費総額)：¥1,885,000-
令和4年度事業費： 520,000-
令和5年度事業費： 1,257,000-
令和6年度事業費(計画) 108,000-
- ・業務(実施)期間：令和4年～令和6年

取組後の感想

【良かった点】

・地域連携しての取組で間伐材を利用した取組で完成出来た事で連帯感が増した。

【悪かった点】

・冬期天候が悪く 小屋組立が遅れ年度末完成となり慌てた。

【簡易休憩小屋設置の様子】



【鳥獣対策鹿囲い補修の様子】



地域活性化を目的とした森林利用促進を行った事例

事業名 特認事業(その他)

市町名 安芸高田市

取組のきっかけ・経緯

・農地に隣接し放置竹林が繁茂し猪やシカ等の住処となり農業被害が増えている現状がある。
また、道路沿いに竹がせり出し、冬季には積雪により道路をふさぎ除雪作業の妨げとなっている。
しかしながら、地域は高齢化が進み、竹林整備が困難となってきている為、地域貢献の一環として竹林整備を行い、伐採した竹の新たな利活用を目指す。

今後の展開

・竹炭を商品化し新たな産物としたい。
・竹林整備後、地域住民と協力しタケノコ堀等のイベントを開催し、関係人口の創出をする。

取組の内容

- ・事業主体: 株式会社ふれあい市
- ・実施場所: 美土里町生桑地域
- ・業務量: 炭化設備、伐採設備一式
- ・業務金額(事業費総額): 2,665,000円
- ・業務期間: 令和5年10月31日
～令和6年3月29日



取組後の感想

・予算の関係で計画変更が生じ、工程が遅れた為、竹炭の試作ができなかった。

